

坂井義則さんについて

坂井義則(さかい・よしのり)さんは1945年8月6日に三次市で誕生しました。広島市に原子爆弾が投下されたおよそ1時間半後のことでした。

坂井さんは、広島県立三次高等学校在学時から、国民体育大会(現:国民スポーツ大会)400mで優勝し、早くから全国トップレベルのロングスプリンターとして注目を集めました。

三次高校卒業後、早稲田大学に進学、競走部に入部し1964年東京オリンピックの日本代表を目指し、研鑽を積み重ねました。惜しくも東京オリンピック400m、4×400mリレーの代表に届きませんでした。が、“広島へ原爆投下された日に生まれた青年”という象徴性から、東京オリンピックの最終聖火ランナーとして選出され、1964年10月10日、国立競技場の聖火台に聖火を灯すその姿は平和への祈り、未来への希望を世界へ示す歴史的な瞬間となりました。

その後も競技を続け、1966年バンコクアジア大会では4×400mリレーで金メダル、400mでは銀メダルを獲得。日本を代表するトップアスリートとして輝かしい成績を残しました。

早稲田大学卒業後、競技を引退しますが、最終聖火ランナーをめぐる報道をきっかけに株式会社フジテレビジョンに入社します。ミュンヘンオリンピック(1972年)、アトランタオリンピック(1996年)など、複数のオリンピック報道を手掛け、東京国際マラソンの運営にも携わるなど、スポーツの魅力伝える立場としても大きな足跡を残します。

2014年9月10日、70歳で逝去。

坂井義則さんの功績と精神を称え、本記録会では、坂井義則さんの名前を冠し、坂井さんの専門種目であった400m競走を競技種目として実施しています。

参考文献

- シリーズ連載「東京オリンピックから40年」第1回:東京オリンピック聖火最終ランナー・坂井義則氏
日本オリンピック委員会
- 1964年東京オリンピック最終聖火ランナー坂井義則氏 紹介
三次市



みよし運動公園では坂井さんの功績を称えた記念碑を設置しています。